

## 聖日礼拝説教要旨 【2012年11月4日】

### 「 聖霊の証印を受けて 」

イザヤ書  
エペソ人への手紙

第63章10節～14節  
第4章25節～32節

説教 岡村 恒牧師

「あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」(30節)別の翻訳では、「あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。」(同、新共同訳聖書)と記されています。

エペソ人への手紙の1章から3章にかけて、私たちはイエス・キリストによって確かに救われている、ということがはっきりと記されていました。そして3章の終わりでは、私たちの思いや期待をはるかに超えて、神には、私たちを造り変えて新しい命に生かして下さることができる、と宣言し祈っています。そして4章に入って、新しい生き方について語り始めます。

今朝の聖書の箇所には、「～してはならない」という禁止の言葉がいくつも登場します。《十戒》を思い起こさせる書き方です。一見すると、神が私たちががんじがらめにしばりつけるかのようにさえ見えます。「怒ることがあっても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようであってはならない。」(26節)という禁止の言葉も、十戒の様々な戒めも、実現不可能に思えます。多くの宗教や哲学は、こういう戒めによって人間を縛り、支配しようとしています。しかし聖書の言葉は、これだけ禁止の命令を重ねながら、なお、福音は私たちを解放し、自由にするのだと言います。どういう意味でしょうか。

25節は前の段落の、古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着て生きるようになる、という約束を受けて、「こういうわけだから」と語り始めています。私たちに、本当に新しく造り変えられて、新しい生き方が与えられている。私たち自身にはできないが神にはできる、と語ってきたのです。神が、ひとり子、イエス・キリストを犠牲にしてまで私たちをご自分のものとして下さった以上は、私たちは主イエスに結びつけられ、主イエスのからだの一部として、一つの命と一緒に生きるようになるのです。

「怒り」とは裁くことです。自分が正しく他者が間違っているという判断が怒りの根底にあります。だから、怒りが神の前で正しい怒りかどうか、一日の終わりに振り返って確認したら良いと言います。眠りにつく時の祈りは、臨終の祈りの予行演習です。神の救いの約束に、身と魂の一切を委ねて私たちは眠ります。だから、その日の怒りも、不安も、神の手に委ねて眠ったら良いのです。

また、十戒には前文があります。「わたしのほかに、なにものをも神としてはならない」(出エジプト記 20章3節)という命令の前に、「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。」(同2節)という宣言が響いています。あなたを救い出したこのわたしの他に、何か別のものを神として拝んだり支配されたりする必要などないのだ、と神は言われたのです。同じ様に、私たちの救い主に自分自身をお委ねすることなしに眠りにつくようなことがあるはずがない、と御言葉は語っています。古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着て生きる、というのは、不要なものが取り去られた後に、本当の命が注ぎ入れられる、という話です。神に一切をお委ねし、空っぽになったところに、わざわざ悪魔に場所を用意するのではなく、神ご自身に住んでいただき、神が、私の人生全体を満たして下さるように祈ったら良いのです。あらゆるものに満ち満ちておられるお方が、私たちを満たして下さるのです。

主イエス・キリストの霊、聖霊によって生かされる時、私たちの口は、人を傷つけるような言葉から解放されます。むしろ、人の徳を高め、人を築きあげるような言葉を発するようになります。聖霊が私たちの内に住む、というのは、「聖霊の証印を受け」(30節)という話です。この私が確かに神のものである、という証拠のしるしがしっかりと押されるのです。罪の赦しの洗礼が授けられる時、人の目には見えませんが、神の目には明らかな、救いの保証のしるしが押されます。そしてこの証印は、一日一日私たちを造り変えて新しくして下さるのです。

今日の午後、墓前礼拝を行います。それはお墓参りではありません。墓の前に立って、眠りについた兄弟姉妹方を偲びますが、そこで行うことは礼拝です。神の確かな約束の言葉を共に聞き、大阪教会の墓もやがて空になり、眠りについた者が皆引き上げられる日を共に待ち望むのです。地上から一人を失う時、私たちは確かに天と呼ばれる神の元、変えるべき故郷に一人を加えるのです。やがて終わりの日に、その天の我が家で私たちは神とお会いし、主と共に食卓に着くのです。この確かな約束を《福音》と呼んでいます。この約束を握り締めて生きることが出来る幸い、聖霊の証印を受けて神のものとして生きる幸いを神に感謝しましょう。

(記 岡村 恒)